

# 伊吹山花だより

第59号 (令和4年5月)

上野区：ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

登山に最適な5月。花を愛でてゆつくりと。

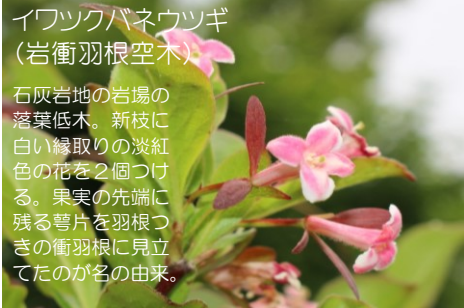
暖かな陽光が降り注ぐ5月。  
紫外線に気を使いながらも、存分に伊吹  
山の花や自然を楽しんでください。  
そしてリフレッシュして、明日からまた一  
歩ずつ前に進みましょう。  
山に来ればきっと晴れ晴れしますよ。



ヤマシャクヤク  
(山芍薬)

山地帯に生え全  
体に芍薬に似る  
のが名の由来。  
茎の先端に4～  
5cmで清楚で  
白色の花を1つ  
つけ、上を向い  
て開く。大きな  
花の中に黄色の  
雄しべと赤い雌  
しべ。

初めての出会いに暫し  
佇んだ  
ヤマシャクヤクの蒸しさに



イワツクバネウツギ  
(岩衝羽根空木)

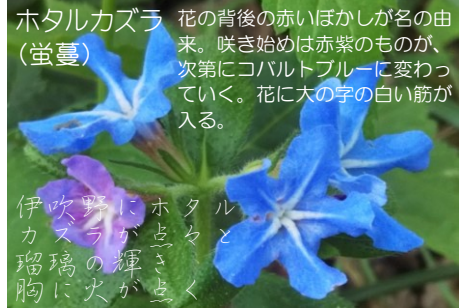
石灰岩地の岩場の  
落葉低木。新枝に  
白い縁取りの淡紅  
色の花を2個つけ  
る。果実の先端に  
残る萼片を羽根つ  
きの衝羽根に見立  
てたのが名の由来。



オドリゴソウ  
(踊子草)

花の形が笠を  
被って踊る人  
の姿を思わせ  
るのが名の由  
来。花の色は  
ピンク～白色  
で数回輪生状  
態となり茎の  
上部に数段つ  
ける

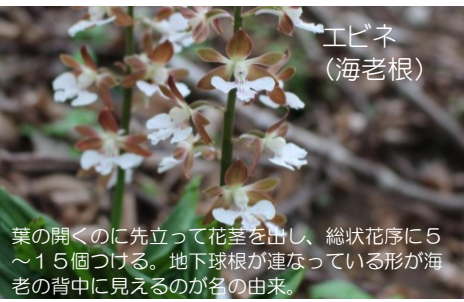
朝の日和とオドリゴソウの陽気とが重なって見えた得した火曜日



ホタルカズラ  
(蛍蔓)

花の背後の赤いほしが名の由  
来。咲き始めは赤紫のものが、  
次第にコバルトブルーに変わっ  
ていく。花に大の字の白い筋が  
入る。

伊吹野にホタル  
カズラが点々と  
瑠璃の輝きを  
胸に火が点く



エビネ  
(海老根)

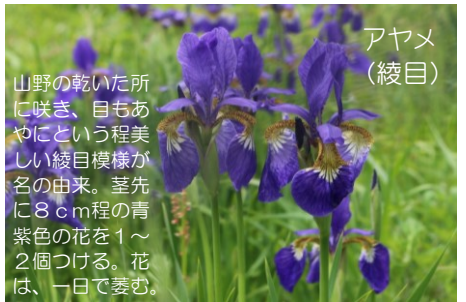
葉の開くのに先立って花茎を出し、繸状花序に5  
～15個つける。地下球根が連なっている形が海  
老の背中に見えるのが名の由来。



ルイヨウボタン  
(類葉牡丹)

葉のつき方がボ  
タンに似るのが  
名の由来。葉や  
茎には毛はなく、  
花は10個程度  
が集散状につき、  
2～3cmと小  
さく黄緑色。

一面の類葉牡丹  
綺麗くて  
足根の細道ベルの音止まる



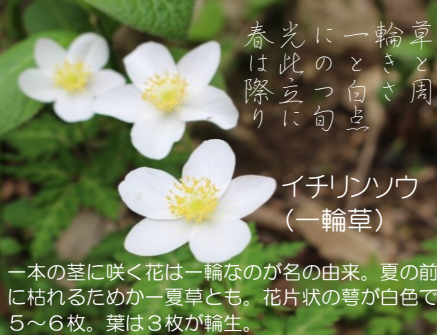
アヤメ  
(綾目)

山野の乾いた所  
に咲き、目もあ  
やにという程美  
しい綾目模様か  
名の由来。茎先  
に8cm程の青  
紫色の花を1～  
2個つける。花  
は、一日で萎む。



エゾノタチツボスミレ(蝦夷の立坪葎)

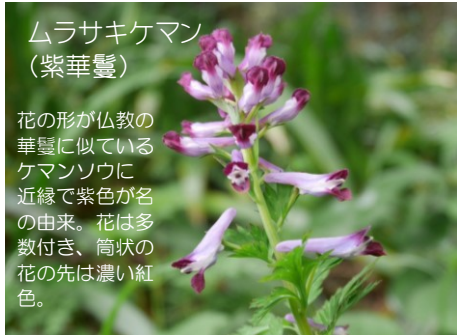
名は、北海道に多いことが名の由来。伊吹山が南  
西限。花茎、葉茎、葉、萼片に長い毛があり、距  
は白く短い。花色は、淡紫紅色～白色。



イチリンソウ  
(一輪草)

一本の茎に咲く花は一輪なのが名の由来。夏の  
前に枯れるため一夏草とも。花片状の萼が白色で  
5～6枚。葉は3枚が輪生。

春光に一輪草と周  
は此のとき白さ  
際立つ旬



ムラサキゲマン  
(紫華蔓)

花の形が仏教の  
華蔓に似ている  
ゲマンソウに  
近縁で紫色が名  
の由来。花は多  
数付き、筒状の  
花の先は濃い紅  
色。



イブキシモツケ  
(伊吹下野)

伊吹山で最初に発見されたのが名の由来。石灰岩  
地の落葉低木。葉は互生で鋸歯があり、花には芳  
香があり、茎先から白い散房花序に花をつける。



ギンラン  
(銀蘭)

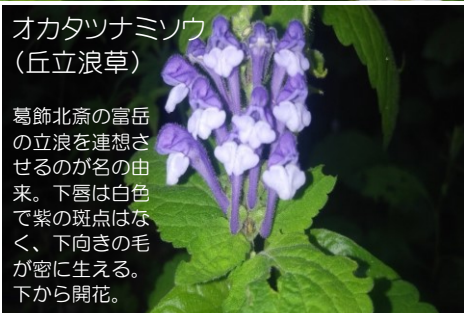
黄色の花を咲かせるギンランに対して、白色で  
ランを思わせるのが名の由来。茎は直立して細  
く、先に数個の白色の花をつけ、全体にギンラ  
ンより小さい。

ギンラン  
(金蘭)



ヤマールISONO  
(山瑠璃草)

放射状に出る地際の葉がへら状で大きく、茎の  
葉は小さい。花色からルリで、ルリソウと区別  
するため、ヤマがつくのが名の由来。



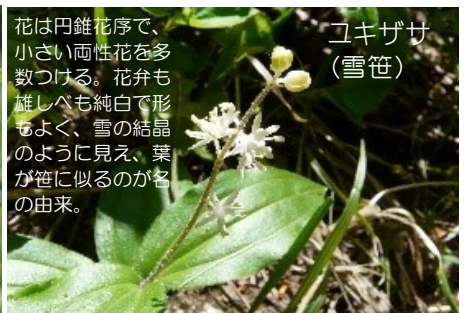
オカタツナミソウ  
(丘立浪草)

葛飾北斎の富岳  
の立浪を連想さ  
せるのが名の由  
来。下唇は白色  
で紫の斑点はな  
く、下向きの毛  
が密に生える。  
下から開花。



ホウチャクソウ  
(宝鐸草)

寺院や仏塔の軒に  
吊ってある宝鐸に花  
の形が似るのが名  
の由来。花弁が内側と  
外側に各々3枚ずつ  
で、枝先に3～5個  
垂れ下がり咲く。



キキザサ  
(雪笹)

花は円錐花序で、  
小さい両性花を多  
数つける。花弁も  
雄しべも純白で形  
もよく、雪の結晶  
のように見え、葉  
が笹に似るのが名  
の由来。



## 伊吹山三合目でニホンジカの食害等から植生を守る取組スタート！

2022年4月9日（土）ユウスゲをはじめ様々な草花が楽しめる三合目で、冬の間に下ろしていた獣害防止ネットを引き上げるとともに、傾いた支柱や損傷したネットの修復、観察路ゲートの設置を行いました。ネット内にはこのゲートから自由に入って頂けますが、**出入り後は必ずゲートをロックしてください。**万が一、鹿が侵入すると一夜で深刻な植生被害を引き起こします。



## 安全に登山を楽しんで頂くために～登山道整備事業も開始しました。

この冬は大雪となりましたが3月からは一気に気温も高くなり、登山者の皆さんが増えてきました。このため、4月17日（日）に登山道整備事業をスタートし積雪等で傷んだ誘導ロープや鉄杭を補修しました。今後定期的に登山道整備を実施します。なお、作業当日も登山道から落石がありました。特に7合目から上部はニホンジカの獣害や大雨の影響で落石のリスクが高くなっていますので、「落石をさせない」「落石にあわない」よう十分に注意してください。

## コロナ禍で中止した植物観察会も再開。エイザンスミレにイブキスミレetc.

昨年度、コロナ禍で中止していた三合目植物観察会を再開しました。4月24日（日）小雨模様でしたが、エイザンスミレ、イブキスミレ、ニンソウ、ササバエンゴサク、ヤマエンゴサク、カタクリ、スハマソウ、ウスバサイシン、ヒトリシズカ、イカリソウ、エンレイソウ、ツボスミレ、タチツボスミレ、クサボケ、アマナ、若葉のヤブレガサ、ウラシマソウ、マムシグサなどが見られました。5月は22日です。

### 連載 牧野富太郎博士と伊吹山 その2

8代将軍徳川吉宗は薬草の栽培や採集を奨励しました。伊吹山にも幕府の役人植村左平次が薬草採分に登っている様子が、松井徹夫さん所蔵文書からわかります。日本近代植物学の基礎となった『大和本草(やまとほんぞう)』や『草木図説(そうほんずせつ)』などには伊吹山産の植物がたくさん紹介されています。高知県の山間部佐川村の造り酒屋の一人息子牧野富太郎も、これらの書物で独学しました。そして、富太郎が伊吹山に初めて足跡をのこしたのは、明治14年(1881)19歳のときなのです。東京での博覧会見物と顕微鏡や書籍を購入した帰路、「私は関ヶ原あたりで従者と別れ単身伊吹山に登ることにして、(中略)伊吹山の麓では薬業を営む人の家に泊り、山を案内して貰った。頂上までは登らなかつたが色々な植物を採集した」。そして、東京で学んだ本格的な方法で、「ふもとの宿にもどると、夜おそくまで標本づくりに熱中しました」と自叙伝で述べています。

### 伊吹山の歴史 その1 関西最古のスキー場

伊吹山は1914年に越前高田でオーストリアのレルヒ少佐から指導を受けた中山再次郎氏により生徒のスキー指導に利用されたことからスキー場の歴史が始まる。1920年第1回伊吹山雪艇大会開催、1922年朝香宮殿下がスキーを楽しまれるなど昭和初期には国鉄も臨時電車を運行し、当時スキー場への乗客数は妙高スキー場を上回る1万5千人余と日本一であった。

昭和31年にリフト設置など本格的に開発され、地元では民宿や山小屋の営業など地域活性化に大きく貢献したが、雪不足やスキー人口の減少などで平成19年で営業が終わり96年間の歴史を閉じた。「写真で振り返る伊吹山物語」「伊吹山風土記」(サンライズ出版)参考

閉鎖後の誰もいない一合目  
(令和4年)